

平成 30 年度

乙訓圏域障がい者自立支援協議会報告書（案）

平成 31 年 4 月

乙訓圏域障がい者自立支援協議会

目 次

1 運営報告	1
2 「医療的ケア」委員会報告	7
3 地域生活支援拠点部会報告	11
4 就労支援部会報告	15
5 各プロジェクト報告	
相談支援プロジェクト報告	19
喀痰吸引等研修プロジェクト報告	23
精神障がい者地域生活支援プロジェクト報告	27

運営報告（案）

1 はじめに

乙訓圏域障がい者自立支援協議会は、福祉や医療などの生活に必要なサービス基盤や環境が共有されている乙訓圏域の特性から、平成19年度に乙訓地域で生活する障がい者（児）及び難病患者等の自立と社会参加を支援するため、向日市・長岡京市・大山崎町の2市1町により共同設置されました。

協議会は、障がい者や保護者、関係機関等に障害福祉サービス等に関する聴き取り調査やアンケートを実施し、サービス利用の実態や利用に関する意見・要望等の把握に努め、障がい者等の生活の質の向上のために活動してきました。

これからは、この成果を活かして、本人の意思を尊重したサービス等利用計画の一層の充実や必要なサービスの整備をはじめとした多くの課題について、具体的な解決に向けての活動が必要とされています。

協議会は、年度当初に運営委員会で協議すべき課題を共有して、それぞれの部会等で活動方針や達成目標を前提に様々な立場からの意見を出し合い、課題をできるだけ明らかにしながら、必要な施策について具体的な協議を行うとともに、行政への提案も行っています。

2 組織体制

（1）運営委員会の開催

運営委員会は行政機関と相談支援の委託を受けた10事業所で定例会を開催し、協議すべき課題や支援策の検討、部会の進め方などについて協議しました。

（2）全体会・部会・プロジェクトの設置

全体会では、前年度事業のまとめの報告について確認し、引き続き当年度の取り組みについて協議・確認しました。

平成30年度は、1委員会（「医療的ケア」委員会）、2部会（地域生活支援拠点部会、就労支援部会）を設置しました。さらには、3つのプロジェクト（相談支援プロジェクト、喀痰吸引等研修プロジェクト、精神障がい者地域生活支援プロジェクト）を設置し、さまざまな協議・活動を行ってきました。

各部会等の協議の到達点と成果、課題については、各委員に意見を求めて作成されたそれぞれ報告書の中で後述しております。

（3）事務局としての取り組み

平成29年度に地域生活支援部会で取り組んだ「乙訓圏域新任職員連続講座」は、開催の継続を求める要望が強かったため、平成30年度は事務局事業として取り組みました。

その結果については、報告書に記載しています。

<資料1>

3 平成 31 年度の課題

平成 30 年度の部会等の協議の中で様々な課題が明らかになりました。運営委員会はそれらの課題を整理しながら、具体的な活動に繋げていくための方策を協議していく必要があります。

また、「乙訓圏域新任職員連続講座」は引き続き開催の要望があるため、内容について充分検討した上で平成 31 年度も開催に向けて準備することとします。

なお、「向日が丘共生型地域づくり構想」については、これからこの内容が具体化される計画の段階に進んでいくものと考えられます。協議会としては、計画の中味について大きな関心を持ちながら、引き続き注視していく必要があります。

4 情報の公開

協議会の活動内容は広く住民に理解され共感されることが必要で、この情報が広く共有されることが今後のネットワーク活動の広がりにつながります。

これからも可能な限り各部会等の会議録の公開、部会の傍聴を進めていく必要があります。

また、協議会の情報公開については、ホームページの活用を基本に行っています。

<添付資料>

資料 1 平成 30 年度乙訓圏域新任職員連続講座実施報告

平成30年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 委員

分野・団体		団体・機関名	所属名	役職	委員
相談支援事業所		乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
		(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	事業長	中谷大介
		(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大
		(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗
		(福)向日市社会福祉協議会	障がい者地域生活支援センター	主任	吉川昭子
		NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	所長	伊藤美恵
		(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センター アイリス	主任就業支援員	青戸享子
		(一社)からふる乙訓	からふる・ぶらんしゅ	管理者	神谷真弓
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長補佐	山田洋平
		(福)大山崎町社会福祉協議会	相談支援事業所	相談支援専門員	上田祥子
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長補佐	上田佳子
	障がい福祉サービス事業所関係	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	(福)乙訓福祉会		統括事業長
居宅支援事業者		(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協ホームヘルプセンター		未定
		(福)長岡京市社会福祉協議会	ホームヘルプ事業	事業長	蛭川尚子
公設支援事業者		(福)大山崎町社会福祉協議会		課長	阿久根猛
		施設入所支援事業者	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長
第3号登録研修機関	(福)乙の国福祉会	障害者支援施設晨光苑	施設長	梅垣 剛	
医療関係団体	乙訓訪問看護ステーション連絡会	(社)乙訓医師会		障がい者担当理事	堀 直樹
		京都府乙訓歯科医師会			安藤純夫
		(福)恩賜財団済生会京都府病院	福祉相談室	室長	南本宜子
		(医)回生会	訪問看護ステーション第2かいせい	所長	上林有香
教育・雇用・企業		京都府立向日が丘支援学校		校長	平岡克也
		京都府乙訓教育局	学校教育担当	指導主事	高平秀揮
		京都七条公共職業安定所	京都障害者職業相談室	室長	笹村一弘
		乙訓地域商工会広域連携協議会	乙訓地域商工会広域連携協議会事務局	長岡京市商工会事務局長	篠永卓士
		(社)乙訓青年会議所	理事 未来の宝育成委員会	委員長	近藤宏和
		(社)乙訓青年会議所	理事 まちづくり委員会	委員長	達城英治
障がい者関係団体	当事者団体	京都府身体障害者団体連合会乙訓ブロック	長岡京市身体障がい者団体連合会	会長	三好俊昭
		(社)京家連 乙訓やよい会		副会長	西村くみ子
		乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓障害児父母の会		河合祥子
行政		京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長	井上裕之
		乙訓福祉施設事務組合		事務局長	藤本正次
		向日市	健康福祉部	部長	水上信之
		長岡京市	健康福祉部	部長	池田裕子
		大山崎町	健康福祉部	部長	野田利幸

運営委員	相談支援事業所	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
		(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	事業長	中谷大介
		(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大
		(財)長岡記念財団	地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗
		(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	センター長	石松友樹
		NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	所長	伊藤美恵
		(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センター アイリス	主任就業支援員	青戸享子
		(一社)からふる乙訓	からふる・ぶらんしゅ	管理者	神谷真弓
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長補佐	山田洋平
		(福)大山崎町社会福祉協議会	相談支援事業所	相談支援専門員	上田祥子
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長補佐	上田佳子
		行政	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長
	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所		福祉室	副室長	原田寿樹
	乙訓福祉施設事務組合		乙訓若竹苑	事務長	中島知子
	向日市		健康福祉部障がい者支援課	係長	岩谷誠司
	長岡京市		健康福祉部障がい福祉課	係長	山田一步
	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	吉田知英	

平成30年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 委員会・部会・プロジェクト委員 一覧

「医療的ケア」委員会 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	主任	吉川昭子
2	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長補佐	山田洋平
3	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	事業長	中谷大介
4	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人てくてく	理事長	尾瀬順次
5	(福)乙訓福祉会		統括事業長	三宅州人
6	(社)乙訓医師会		障がい者担当理事	堀直樹
7	京都府乙訓歯科医師会			安藤純夫
8	(福)恩賜財団済生会京都府病院	福祉相談室	室長	南本宜子
9	乙訓訪問看護ステーション連絡会	訪問看護ステーション第2かいせい	所長	上林有香
10	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓障害児父母の会		村上和子
11	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	京都府立向日が丘支援学校 医療的ケア部		西村朝美
12	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	副室長	原田寿樹
13	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	保健室	室長	玉井公子
14	向日市	健康福祉部障がい者支援課	主任保健師	團塚 瞳
15	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	保健師長	山崎節子
16	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	吉田知英

地域生活支援拠点部会 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
2	(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	事業長	中谷大介
3	(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大
4	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	センター長	石松友樹
5	NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	所長	伊藤美恵
6	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	(福)あらぐさ福祉会 障がい福祉センターあらぐさ	センター長	浜野亜希子
7	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	係長	岡西真奈
8	(福)乙の国福祉会	障害者支援施設晨光苑	生活相談員	山岸 賢
9	(福)乙訓福祉会		統括事業長	三宅州人
10	京都府立向日が丘支援学校		副校長	筒井 彰
11	(公社)京家連 乙訓やよい会		副会長	西村くみ子
12	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓手をつなぐ親の会		大石ゆかり
13	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長	井上裕之
14	向日市	健康福祉部障がい者支援課	係長	岩谷誠司
15	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	係長	山田一步
16	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	吉田知英

就労支援部会 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	(福)向陵会	乙訓ひまわり園ワークセンター	センター長	丸山千明
2	NPO法人こらぼねっと京都	就労移行支援事業所ステージ		竹下 誠
3	(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センターアイリス	所長	千丸智代
4	(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センターアイリス	主任就業支援員	青戸享子
5	(財)長岡記念財団	就労移行支援事業所ピオニー	作業療法士	西山靖子
6	(財)長岡記念財団	就労移行支援事業所ピオニー	精神保健福祉士	佃 成未
7	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長補佐	上田佳子
8	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人乙訓やよい福祉会 やよい工房久貝事業所	所長	井上 護
9	京都府立向日が丘支援学校		進路指導部長	夏川久子
10	京都七条公共職業安定所	京都障害者職業相談室	室長	笹村一弘
11	乙訓地域商工会広域連携協議会	長岡京市商工会	事務局長	篠永卓士
12	公益社団法人乙訓青年会議所	理事 まちづくり委員会	委員長	達城英治
13	公益社団法人乙訓青年会議所	未来の宝育成委員会	幹事	坂元 陸
14	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長	井上裕之
15	向日市	健康福祉部障がい者支援課	主任	宮川圭美
16	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主事	田中希佳
17	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	吉田知英

喀痰吸引等研修プロジェクト 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長補佐	山田洋平
2	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	事業長	中谷大介
3	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人てくてく	理事長	尾瀬順次
4	(福)乙訓福祉会		統括事業長	三宅州人
5	(社)乙訓医師会		障がい者担当理事	堀 直樹
6	乙訓訪問看護ステーション連絡会	訪問看護ステーション第2かいせい	所長	上林有香
7	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	保健師長	山崎節子

相談支援プロジェクト 委員

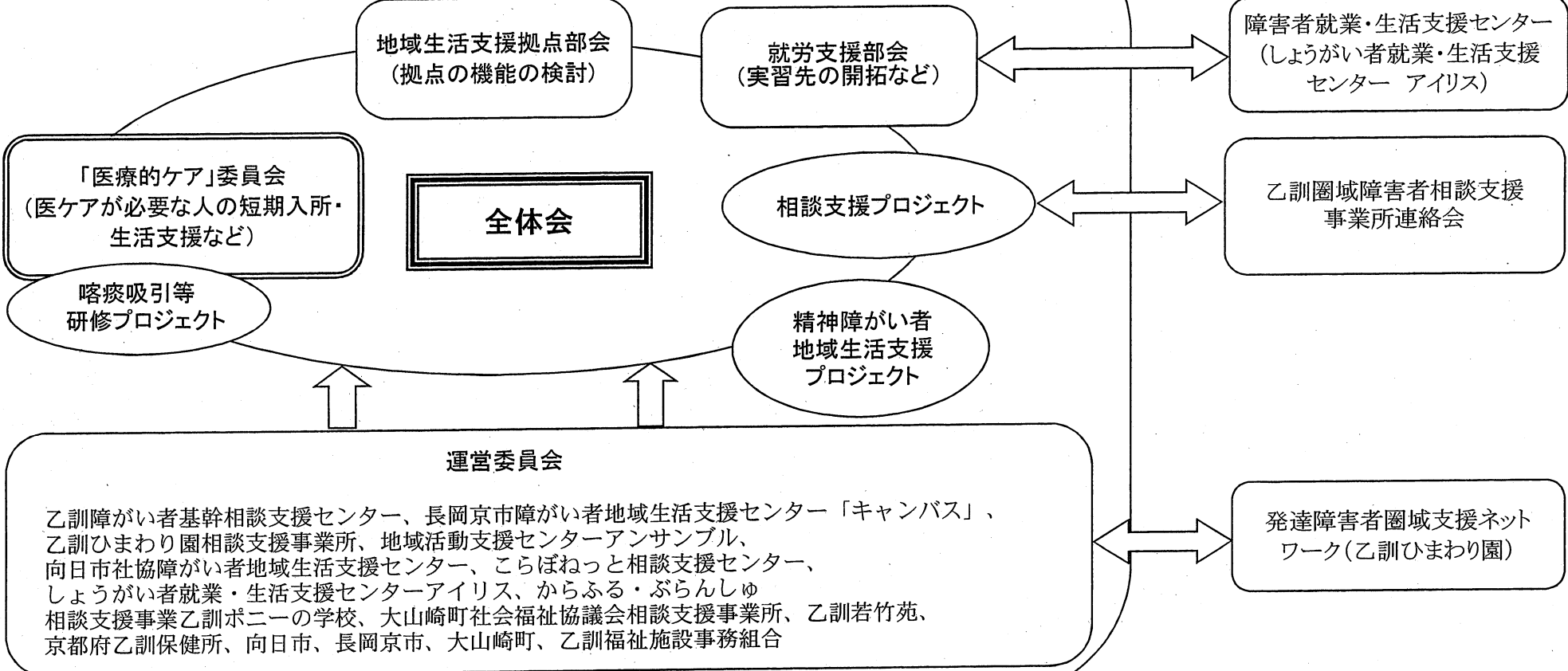
	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
2	(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	事業長	中谷大介
3	(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大
4	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	センター長	石松友樹
5	(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗
6	NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	所長	伊藤美恵
7	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長補佐	山田洋平
8	(福)大山崎町社会福祉協議会	相談支援事業所	相談支援専門員	上田祥子
9	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長補佐	上田佳子
10	京都府立向日が丘支援学校	小学部	総括主事	西野園枝
11	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓障害児父母の会		長澤洋子
12	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓手をつなぐ親の会		大石ゆかり
13	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	副室長	原田寿樹
14	向日市	健康福祉部障がい者支援課	係長	岩谷誠司
15	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主査	鈴木祐子
16	大山崎町	健康福祉部福祉課	主事	高畑史絵

精神障がい者地域生活支援プロジェクト 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
2	(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗
3	NPO法人乙訓やよい福祉会	グループホームかんな	サービス管理責任者	安西桂子
4	(財)長岡記念財団	長岡病院医療社会事業部	課長	今堀幸弘
5	(財)療道協会 西山病院	医療福祉相談室	精神保健福祉士	内田雅也
6	(公社)京家連 乙訓やよい会		幹事	近藤慶子
7	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	主任	田中満美
8	向日市	健康福祉部障がい者支援課	主査	山本公一
9	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主事	中野真衣
10	大山崎町	健康福祉部福祉課	主事	堀紗依未

平成30年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会と他の機関等関係図

乙訓圏域障がい者自立支援協議会



乙訓圏域障害者支援事業所
連絡協議会

乙訓特別支援連携協議会
(京都府乙訓教育局・
京都府立向日が丘支援学校)

平成 30 年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

「医療的ケア」委員会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

「医療的ケア」委員会は、医療的ケアが日常的に必要な障がいがある人が安心して地域で生活していけるよう、居宅等での生活支援にあたり、関係機関が連携して圏域内における支援体制を構築・確保することを目的、役割としています。

2 昨年度までの経過

乙訓圏域障がい者自立支援協議会の常設委員会として平成 23 年度から設置され、乙訓圏域における「介護職員等による喀痰吸引等研修（第 3 号研修）」の実施や「入院時コミュニケーション支援」の制度化、「医療的ケアが必要な人の短期入所の利用」についての検討を行ってきました。

3 今年度の取り組み状況

(1) 定例会

第 1 回 平成 30 年 6 月 28 日（木）

- 1) 平成 30 年度の委員会体制
- 2) 平成 29 年度活動報告、平成 30 年度活動内容
- 3) 視察先に関する事前学習

第 2 回 平成 30 年 8 月 2 日（木）

視察・社会福祉法人こもれび グループホーム「ぼかぼか」
・久御山南病院 医療型短期入所

第 3 回 平成 30 年 10 月 18 日（木）

- 1) こもれび・久御山南病院の視察報告
- 2) 行政説明

「医療機関での短期入所サービスに必要な看護師等に対する助成」について 京都府障害者支援課 石川 専門幹

第 4 回 平成 30 年 12 月 20 日（木）

- 1) 30 年度「介護職員等による喀痰吸引等研修」実施報告
- 2) 長岡京市「医療的ケア児保育支援モデル事業」の報告
- 3) 長岡京市が実施している施設入浴についての報告
- 4) 今年度のまとめと来年度の取り組みについて

第5回 平成31年2月28日(木)

1) 行政説明

「医療的ケア児者・重症心身障害児者短期入所受入体制拡充事業」
について 京都府障害者支援課 石川 専門幹

2) 今年度のまとめについて

3) 来年度の取り組む課題等について

(2) 介護職員等による喀痰吸引等研修(第3号研修)の実施

日時:平成30年10月27日(土)9:30~16:00

10月28日(日)9:00~16:00

場所:社会福祉法人乙訓福社会 乙訓の里

参加者:21名 修了者:21名

4 今年度の活動

(1) 医療的ケアが必要な方の短期入所の実現に向けて

平成30年度は医療型短期入所実現に向けて、医療型短期入所を実施している医療機関や最重度の方を受け入れているグループホーム・短期入所施設を訪問し、実際の運営状況や課題について学びました。

<資料1>

京都府では、医療的ケア児支援強化事業として「医療機関における短期入所サービスに必要な看護師等に対する助成」が実施され、これにより医療型短期入所施設へ馴染みの訪問看護師やヘルパーを派遣することが可能となりました。この制度は、医療機関が医療型短期入所を実施する大きな後押しになることが期待されます。

この制度の内容について京都府障害者支援課から直接説明を聴いて、制度の具体的利用に関することも学びました。

さらに、「医療的ケア児を受け入れる保育所の看護師・加配保育士配置等に対する助成」モデル事業として実施している長岡京市から、平成29年度から医療的ケアの必要な児の保育に対して看護師を配置した2年間の実践報告がありました。

(2) 喀痰吸引等研修プロジェクトとの連携について

医療的ケアを行うことができる人材養成のために、喀痰吸引等研修の実施について、登録研修機関である乙訓福社会と連携し、研修委員や研修講師の派遣等の形で協力しました。

平成30年度は21名が受講し、全員が基本研修を修了されました。

5 次年度の課題と方針

(1) 人材育成について

医療的ケアを行うことができる人材確保のため、平成 31 年度も喀痰吸引等研修プロジェクトと連携・協力し、研修の実施に向け取り組んでいきます。

(2) 個別ケースの課題の検討について

必要な制度の学習や実施状況を委員会で共有しながら、基幹相談支援センターと連携し、個別ケースの課題解決に向けた検討を行います。

また、個別課題を整理する中で政策提言等が必要な地域課題が出てきた際には、適宜、本委員会にて具体的な検討を行います。

(3) 医療的ケアが必要な方の短期入所について

平成 30 年度の視察や行政説明からの学びを委員会で共有するだけでなく、利用できる施設の選択肢を増やすために、乙訓の医療機関に対して医療的ケア児支援強化事業の「医療的ケア児者・重症心身障害児者短期入所受入体制拡充事業」を周知していくことも必要です。

また、福祉型短期入所について、平成 29 年度に高齢者施設での実施の可能性について議論しました。今後も短期入所が実施できる施設の拡大についても検討が必要です。

(4) 医療的ケア児・者の実際を住民や福祉関係者に知ってもらうための活動について

本委員会は、「医療的ケアが必要な方の短期入所」や「喀痰吸引等研修」等について取り組んできましたが、医療的ケアが必要な方の実際の生活や医療的ケアとはどういったことなのかを知ることは「医療的ケア」を理解する上でベースとなるものであり、普段関わりのない方や福祉従事者に知ってもらうための活動も必要です。

『全く知らないから不安』を、少し知ることに関心を持ってもらうためにどういった方策があるかを検討する必要があります。

<添付資料>

資料 1 「医療的ケア」委員会視察報告

平成 30 年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

地域生活支援拠点部会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

乙訓圏域障がい者自立支援協議会発足当初より「地域生活支援部会」として、障がいのある人々が安心して暮らせる地域社会の構築を目指して、議論を積み上げてきました。平成 29 年度までのまとめを受けて、本年度から焦点を絞った議論を進めていくために部会の名称を改称し「地域生活支援拠点部会」として設置しました。

2 昨年度までの経過

「地域生活支援部会」では平成 28 年度まで「緊急時に対してどんな支援が必要かを考え、平常時からどのようなことを備えておけばよいか」をはじめとした緊急時の支援のあり方について議論してきました。

平成 29 年度は、緊急時対応が必要とされる「地域生活支援拠点」について、協議を行いました。

その協議の中で、緊急時の対応として、支援者事業所の配慮で、柔軟に対応しているのが現状であることを確認しました。緊急時に限らず、確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。

3 今年度の取り組み状況

部会

第 1 回 平成 30 年 6 月 19 日（火）

- 1) 部会長 副部会長の選出について
- 2) 今年度の部会の進め方について

第 2 回 平成 30 年 8 月 6 日（月）

- 1) 第 1 回部会のまとめ
- 2) それぞれの拠点機能について

第 3 回 平成 30 年 11 月 2 日（金）

- 1) 生駒市の地域生活支援拠点について

生駒市福祉健康部障がい福祉課支援係長 坂本綾子氏

（福）いこま福祉会生活支援センターかざぐるま

センター長 大谷健太郎氏

第 4 回 平成 31 年 1 月 10 日（木）

- 1) 生駒市の地域生活支援拠点の報告について
- 2) 拠点に求める機能とその優先順位について

第5回 平成31年3月5日(火)

- 1) 今年度のまとめについて
- 2) 情報提供

4 今年度の活動

(1) 概要と取り組み

平成29年度までの「地域生活支援部会」は、緊急時の対応とその支援体制について協議を行ってきました。また、国からは「相談、緊急時受入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり」等の機能を備えた地域生活支援拠点をそれぞれの自治体において創意工夫により整備を進めるよう通知が発出されました。

これを受けて、障がい児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築し、地域で生活する上で必要な仕組みを考えることを前提としながら、乙訓地域の実情に応じた具体的な「地域生活支援拠点」の機能について協議を行いました。

第1回・2回では、地域生活支援拠点に必要な機能とその機能を実際に運用していく際に考えられる人的な資源や施設面での必要なものについて、具体事例を想定しながらそれぞれの立場からの意見を出し合いました。

第3回では、人口が約13万人、大都市に近接した住宅都市、障害者入所施設がない等の地域の特色が比較的乙訓地域と類似している生駒市から行政担当者と事業所の方を招いて、先駆的に実施されている「地域生活支援拠点整備事業」の内容について報告をいただきました。

<資料1>

第4回は、生駒市の事業内容を参考に、本圏域でどのような整備が必要なのか協議を行いました。その結果、生駒市の例から学び、「まずは、やれることから優先順位をつけて行う」とし、既存の資源を生かした機能充実と支援体制に向け、以下の3点について具体的に協議をしました。

- ① 緊急時受入について
- ② 体験の機会と場所について
- ③ 相談(コール)センターについて

(2) まとめ

①緊急時受入について

安全性が確保されるだけでなく、本人が安心して生活できる受け入れ環境が必要です。

② 体験の機会と場所について

それぞれの利用者が、これからの自分の暮らしについて具体的にイメージできるように、一人暮らしやグループホーム・短期入所の体験の実現に向けた検討が必要です。

③ 相談（コール）センターについて

どのような体制が必要なのか、現実的な体制や職員の専門性についての検討が必要です。また指定特定相談支援事業所、委託相談支援事業所、基幹相談支援センターとの連携や業務の分担など、具体的な場면을想定した整備が必要です。

【共通の課題】

現行の体制でも、実際にはさまざまな場面への対応は行われていますが、それぞれの実施事業所が実情に応じて独自に行っているのが現状であり、それらを結びつけ、支援に繋げる仕組みづくりが必要とされています。

また、各事業のサービスの種類と量、職員の専門性についても十分な検討が必要です。

5 次年度の課題と方針

今年度の協議を踏まえ、既存の事業や機能を組み合わせた面的な整備を検討していく必要があります。平成31年度は、実現可能で継続・発展が見通せる地域生活支援拠点の機能（緊急時受入、体験の機会と場所、相談センター）について具体的に協議し、その結果をまとめ、令和2年度の障がい福祉計画策定作業に向け、乙訓2市1町に提案していくこととします。

<添付資料>

資料1 生駒市地域生活支援拠点整備事業について

平成 30 年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

就労支援部会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

障がい者雇用の促進や圏域内の福祉就労における工賃向上など、障がいのある方の就労において多くの課題があることを認識し、その課題を具体的な取り組みの中で、整理し解決に向けた方針を示すため、平成 29 年度に就労支援部会として発足しました。いわゆる一般就労だけでなく、福祉就労にも目を向けています。

2 昨年度までの経過

平成 28 年度に立ち上げた「就労支援に関する準備会」で整理された課題や取り組み方針をもとに平成 29 年度に就労支援部会を立ち上げ、庁内実習の試行を実施しました。

また、圏域内企業での障がい者雇用の状況や取り組みを聞くため、10 社に訪問を依頼しましたが、受け入れていただいたのは 1 社のみでした。このため、連絡時の対応を検証し、実施した聞き取り内容から、企業での障がい者雇用に対する課題の抽出を行いました。

福祉就労に関しては、圏域内の A・B 型就労継続支援事業所に工賃向上への取り組みや就労支援の実態などを聞き取り調査を行い、調査報告書としてまとめました。

3 今年度の取り組み状況 部会

第 1 回 平成 30 年 6 月 22 日（金）10:00～

- 1) 各委員の自己紹介
- 2) 部会長、副部会長の選出
- 3) 昨年度の取組報告
- 4) 本年度の取り組みとおよそのスケジュール

第 2 回 平成 30 年 8 月 23 日（木）13:30～

- 1) 講演「COCO ネット」会議に見る地域ネットワークの活用による就労支援と福祉就労の工賃向上を考える

講師：京都中小企業家同友会理事 石井 雄一郎氏

<資料 1>

第3回 平成30年10月4日(水) 13:30～

- 1) 報告 総合就労支援拠点 京都ジョブパークの取り組みについて
報告者：京都府障害者雇用推進担当課長 松下 妙子氏
- 2) 前回の石井氏の講演についてのまとめ
- 3) 企業訪問の計画
- 4) 庁内実習の進捗状況報告

就労部会主催自由討論会 平成30年11月28日(水) 13:30～

「乙訓で就労支援ネットワークを！」

—企業・福祉・行政・学校でつなぐ竹の箸づくりから考える—

進行：itohen 代表 鯉坂 兼充氏

講師：高野竹工(株) 営業二課長 西田 隼人氏

NPO 法人乙訓障害者事業協会統括長 生田 一朗氏

バスハウス所長 片山 潤氏

一般社団法人暮らしランプ代表理事 森口 誠氏

<資料2>

第4回 平成30年12月13日(木) 13:30～

- 1) 企業訪問の結果について
- 2) 自由討論会のまとめについて
- 3) 庁内実習について
- 4) 今年度のまとめと次年度について

第5回 平成31年2月26日(火) 13:30～

- 1) 企業との連携・協力について
- 2) 今年度のまとめと次年度に向けて

4 今年度の活動内容

就労支援部会において、次の3点について協議を進めてきました。

(1) 乙訓圏域内の庁内実習の実施について

各行政に依頼をした結果、継続して受け入れることになった大山崎町役場と乙訓保健所、今年度から新たに取り組むことになった長岡京市役所での体験実習が試行されることになりました。向日市が調整役を担い「庁内実習の流れ(工程表)」を作成し、実習までの手順や必要な文書を整理しました。

また、実習者については、圏域の就労支援施設にも実習者募集の呼びかけをしました。

<資料3>

(2) 障がい者雇用促進について

障がい者就労支援ネットワークを構築することを目指し、企業と連携するための方策に重点的に取り組みました。企業を巻き込むために講演会や自由討論会を開催し、乙訓中小企業家同友会を中心とした企業にも聴講をしてもらい、その中で企業と顔つなぎができました。

また、障害者理解促進を目的として乙訓圏域内企業 8 社を訪問し、障がい者が働くことについて、実態を伝えるとともに意見交換を行いました。

(3) (A・B型) 就労継続支援事業所の現状と課題を確認するための聴き取り調査の報告について

平成 29 年度に実施した聞き取り調査の報告書を協力いただいた事業所を訪問し、調査結果の報告をしました。その時に企業から受託できる作業と自主製品についての聞き取りを行い、一覧にとりまとめました。

＜資料 4＞

5 次年度の課題と方針

(1) 乙訓圏域内の庁内実習について

実習者・支援者・実習受入機関の実務を「庁内実習のフローチャート」として作成しましたが、平成 30 年度に試行した中で見直しが必要な部分もあり、庁内実習に関わる人・機関が庁内実習の流れと実務について理解できるようにする必要があります。実習者の目的（企業実習の前段階としての機会・他で作業する第一歩の機会など）を確認し、支援者・実習受入機関はそれぞれの立場から目的に合わせた関わりが求められます。

庁内実習は一般就労への支援が前提ですが、実習者によっては急な環境の変化が受け入れにくい方もあり、新たな目標の機会としても利用できるよう、就労継続支援（A・B型）事業所にも実習参加者募集の案内を行います。また、試行段階では受入機関が福祉部局の範囲でしたが、福祉以外の部局の受け入れについても検討していく必要があります。

(2) 障がい者雇用促進について

障がいを持った方の就労を促進するためには、行政、障害福祉サービス事業所、ハローワーク、しょうがい者就業・生活支援センター、教育機関、また医療機関や相談支援機関等、多岐にわたった就労支援ネットワークを構築することが必要です。「就労支援交流会（ネットワーク）」と「就労支援部会」と役割分担し、連携をしながら障がい者雇用促進に向けた取り組みを行うことが必要です。

＜資料 5＞

＜添付資料＞

- 資料 1 講演「COCO ネット」会議に見る地域ネットワークの活用による就労支援と福祉就労の工賃向上を考える 案内
- 資料 2 就労部会主催自由討論会「乙訓で就労支援ネットワークを！」 案内
- 資料 3 平成 30 年度庁内実習報告
- 資料 4 就労支援事業所の自主製品・委託事業のとりまとめ結果
- 資料 5 乙訓の障がい者就労ネットワーク（案）

平成 30 年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

相談支援プロジェクト 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

障がい福祉サービスの適正な供給を目指していくためには、相談支援体制の充実と相談支援事業所間連携の一層の強化が必要です。

このため、サービス利用者や相談支援事業所、行政などの関係者それぞれの視点での個別事例の検討を通して、必要な支援の種類と量を明らかにし、その提供体制についての協議を行っていくことを目的とします。

2 昨年度までの経過

乙訓圏域障がい者自立支援協議会では、相談業務の目的と役割を具体的に検討していくため平成 23 年度に「相談支援部会」を立ち上げました。相談者がスムーズに支援に繋がるためのインテークシートやフロー図の作成、相談支援専門員の研修、家族を対象とした「サービス等利用計画」の説明会など、様々な事業を実施してきました。これにより、相談支援のしくみについて利用者や家族、相談支援事業所からの理解が進みました。

また、平成 29 年度には各市町の「障がい福祉計画」の内容について具体的な数値をもとに独自に分析しました。主要な事業について意見交換を行い、その結果を新しい計画に反映させるために「福祉計画への提案」としてまとめ、市町へ提出しました。

これまでの協議を有益なものとし、具体的な事例の検討を通して、一層の相談支援のネットワークの強化を図るため、本年度から「相談支援プロジェクト」を設置しました。

3 今年度の取り組み状況

部会

第 1 回 平成 30 年 6 月 26 日（火）

- 1) 代表・副代表の選出について
- 2) 昨年度の相談支援部会の経過について
- 3) プロジェクトの進め方について
- 4) 次回プロジェクトに向けての作業について

第 2 回 平成 30 年 9 月 3 日（月）

- 1) 提出された事例の検討

第3回 平成30年10月24日(水)

1) 事例検討を通じて明らかになった地域課題の解決に向けて

第4回 平成30年12月5日(水)

1) 地域課題の解決に向けての具体的な方策について

2) 今年度のまとめと今後の取り組みについて

第5回 平成31年2月7日(木)

1) 今年度のまとめについて

2) 事業所へのアンケート調査の内容について

4 今年度の活動

(1) 概要と取り組み

平成30年度は、以下の3点について取り組みました。

- ① 個別事例を通じた相談支援事業所と基幹相談支援センターのネットワークの強化
- ② 地域課題の抽出を目的とした個別事例の共有
- ③ 入浴に関して圏域の実態を把握するための準備

(2) まとめ

- ① 平成30年度は相談支援プロジェクトでそれぞれの事例を提出し、その課題を共有しました。今まで一つの事業所だけで対応していた事例を共有できたことで、地域の相談支援体制の構築がされつつあります。
- ② 平成30年度は地域課題の抽出を目的として、委員から提出された7つの個別事例の共有を行いました。その事例から次のような課題が明らかになりました。
 - ・重心・医ケアの方の入浴
 - ・成人の余暇活動
 - ・グループホームの開所日
 - ・教育及び医療との連携
 - ・スーパーバイズの必要性
 - ・支援者不足とスキルアップの必要性
 - ・相談支援専門員のスキルアップと心の健康
 - ・相談支援事業所の契約件数が飽和状態
 - ・地域移行の際の報酬について
- ③ これらの中から複数の事業所に共通した入浴に関する課題を精査することとし、圏域の相談支援事業所へ入浴に関わるサービス調整及び利用の実態を把握するための準備を行いました。

5 次年度の課題と方針

平成31年度は、相談支援事業所連絡会の協力を得て、乙訓圏域の入浴に関する福祉サービスを利用している全ケースの実態調査を行い、具体的な課題

を明らかにして、その解消・軽減に向けて協議を行います。

また、平成 30 年度に事例の検討を通して上がった課題を精査し、引き続きプロジェクトとして取り組みます。

それらの協議を通して、相談支援事業所の質の向上と基幹相談支援センターを中心としたネットワークの強化を図る必要があります。

なお、明らかになった課題についても、圏域での新たな社会資源の創出を目指した取り組みについての情報共有を図り、課題の解決に向けて連携していく必要があります。

平成 30 年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

喀痰吸引等研修プロジェクト 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

喀痰吸引等研修プロジェクトは、平成 24 年 4 月「介護職員等による喀痰吸引等の実施のための制度」によって、乙訓圏域での「介護職員等による喀痰吸引等研修<第 3 号研修>」を実施することを目的としています。

このプロジェクトは、平成 24 年度に乙訓圏域障がい者自立支援協議会「医療的ケア」委員会のプロジェクトとして設置しています。

喀痰吸引等を必要とされる人の地域生活を支えるため、担い手となる人材確保・育成していくことを目的、役割としています。

2 昨年度までの経過

平成 24 年度の「喀痰吸引等制度」制度化から「第 3 号研修」が乙訓圏域での研修を継続可能とするため「医療的ケア」委員会で協議を行い、進めてきました。

実施は京都府の指定登録研修機関となる社会福祉法人 乙訓福祉会に乙訓圏域障がい者自立支援協議会が要請し、登録研修機関をバックアップする態勢で研修を実施しています。

平成 24 年 9 月以降の「第 3 号研修」について以下のとおり実施しました。

・平成 24 年度～30 年度 受講者数合計：207 名

（乙訓圏域事業所所属：107 名 圏域外事業所所属：100 名）

3 今年度の取り組み状況

定例会

第 1 回 平成 30 年 6 月 28 日（木）

・平成 30 年度 喀痰吸引等研修実施に向けての確認

下記の内容については、関係者へメールで送信し、調整しました。

8 月：研修開催日時の確認、研修体制及び講師依頼者の確認

9 月：研修開催 周知方法の確認

10 月：研修受講者数の確定、役割確認 進行の確認

第 2 回 平成 30 年 12 月 20 日（木）

・研修報告とまとめ

4 今年度の活動

(1) 平成30年度「第3号研修」の実施

① 研修実施日程

平成30年10月27日(土) 9:30~16:30 (講義)

10月28日(日) 9:00~16:00 (講義) (筆記試験)

(シミュレータ演習)

② 研修実施場所

社会福祉法人 乙訓福社会 乙訓の里

③ 研修受講者数

21名(乙訓圏域事業所:6名 その他京都市等事業所:15名)

《今年度の受講者動向》(平成30年2月6日 現在)

基本研修受講のみ…7名

実地研修受講者数…14名

<資料1>

※筆記再試験の実施について

筆記試験で1名の方が再試験となりました。

平成30年11月1日(木)

・実施場所:乙訓福社会・ライフサポート事業所 事務所2階会議室

・対象者:1名 ※合格されました。

(2) まとめ

「重度障がい児・者等の地域生活等に関する講義」は、地域福祉の現場で豊富な経験のある講師から、法制度の解説及び福祉職が医療的ケアを実施する上での専門性について、「喀痰吸引の講義」「健康状況の把握・経管栄養の講義」は医療看護と介護現場で実践されている看護師より、器機等の使用方法と手順等について分かりやすく講義をしていただきました。

演習は、受講者と指導にあたる講師の看護師の方々が、グループごとに分かれシミュレータを使用し、喀痰吸引(口腔内鼻腔内・気管カニューレ内部)と経管注入(胃ろう・腸ろう・経鼻)全ての手技を受講者が経験できるように配慮していただきました。

また、演習を通じて講師より、詳しい説明や質問についてアドバイスを丁寧にしていただきました。

5 次年度の課題と方針

平成24年度から毎年プロジェクトにおいて協議を行い研修を開催していますが、医療的ケアを必要とする人の支援が充実している状況を確認しながら進めてきました。

今後も国が示す障がい者の重度化・高齢化、医療的ケア児への支援等の制度改正に伴う新たな福祉サービスの創設に対応するため、医療的ケアを必要とする人への支援者育成が必要です。

医療的ケア委員会と課題解決に向け連携を図りながら、平成31年度も乙訓圏域での「第3号研修」を引き続き実施することとします。

実施時期についてですが、10月は各事業所の行事が多く講師派遣について調整が難しい状況がありましたので、平成31年度は11月に実施をすることで調整します。

講師の登録についても、引き続き関係機関への協力依頼をお願いします。

受講者の確保についても、2か月程度の周知期間が必要です。また、圏域での「喀痰吸引研修」への理解を高めていくために、「喀痰吸引」の必要性を周知する事業の実施を検討する必要があります。

<添付資料>

- 資料1 「2018年度介護職員等による喀痰吸引等研修（第3号研修）
実施要綱」

平成 30 年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

精神障がい者地域生活支援プロジェクト 活動報告(案)

1 設置の目的、役割等

精神障がい者の地域移行と地域生活を乙訓圏域の課題として協議するために、平成 25 年に自立支援協議会のプロジェクトとして発足しました。

精神障がい者の地域生活の課題を協議することと、精神障がい者に関わる制度の学習や関係機関の連携を目的として取り組んでいます。

2 昨年度までの経過

平成 25 年度は、精神障がい者の地域移行をすすめるため、地域移行・地域定着支援事業の啓発を目的にパンフレット「地域移行・地域定着支援事業のお知らせ」の作成と配布、事業説明会を実施しました。

平成 26 年度には、グループホームの法制度の学習と乙訓圏域の実状の把握をするために、学習会や事業所からの事業報告、見学会などを行いました。

平成 27 年度は、困難ケースの共有と課題整理をするためにケース検討と協議をしました。また、乙訓圏域の障がい者福祉事業所をまとめた一覧表を作成しました。

平成 28 年度・平成 29 年度は、障がい者の住まい確保に関して、具体的な課題と乙訓圏域の実態について明らかにするために、協力を得られた乙訓圏域の賃貸住宅仲介事業者 13 社を直接訪問した上で、障害者がアパート等へ入居する場合の問題点等に関する聞き取り調査を行い、その結果をまとめた報告書を作成しました。

3 今年度の取組状況

定例会

第 1 回 5 月 8 日 (火)

- 1) 28 年度プロジェクト活動報告
- 2) 報告講演会の内容確認と当日役割分担
- 3) 今年度のプロジェクトについて

報告講演会 自分らしく生活するために自由に家を探そう

5 月 16 日 (水) 13:30~16:00

<資料 1>

- 第2回 7月 6日(金)
 1) 報告会のアンケート確認とまとめ
 2) 今年度の具体的な取り組みについて
- 第3回 9月 14日(金)
 1) 医療が必要な相談事例への対応について
 2) 研修会の取り組みについて
- 第4回 11月 20日(火)
 1) 研修会の内容について
 2) 医療が必要な精神障がい者の相談支援態勢について
- 第5回 12月 17日(月)
 1) 研修会(講演会)について
 2) 医療が必要な精神障がい者の相談フロー図について
 3) 今後の取り組む課題について
- 第6回 1月 15日(火)
 1) 研修会(講演会)について
 2) 医療が必要な精神障がい者の相談フロー図について
 3) 今後の取り組む課題について
- 講演会 ミニシンポ 2月 10日(日)
 「ひきこもり」について考える
 <資料2>
- 第7回 3月 8日(金)
 1) 研修会(講演会)について
 2) 医療が必要な精神障がい者の相談フロー図について
 3) 報告案について

4 今年度の協議内容

(1) 協議の概要

医療が必要な精神障がい者の相談対応のフロー図の作成をしました。

啓発活動として、昨年作成した賃貸住宅仲介事業者への聞き取り調査の報告会と不動産業を営んでいる株式会社高山の高山基則氏の講演会を実施しました。また、NPO 法人乙訓ももが主催したひきこもりをテーマとした講演会にプロジェクトとして協賛し、運営の協力をしました。

(2) まとめ

報告講演会は約40名の参加者がありました。報告会、講演会ともに興味深く聞けたとアンケートで回答する参加者が大半でした。翌日の新聞に報告

講演会が掲載され、6月にはグループホームかんなのサテライト型住居の運営についても掲載されました。

ひきこもりをテーマとした講演会は、民生委員や一般の方の参加が約80名あり、「ひきこもり」に関しての関心の高さが伺え、アンケートにも支援の方法などをもっと知りたいとの感想がありました。

また、相談支援事業所が抱えているケースを医療のスーパーバイズを受けて検討できる場として、保健所の「こころの健康相談」の活用を図っていく必要があることを協議しました。今後、保健所の「こころの健康相談」を各関係機関に周知を図るととともに、相談内容に応じて、こころの健康相談窓口を初め、適切な相談窓口につながるよう、相談経路をまとめたフロー図を作成し、利用促進を図ることとしました。

<資料3>

5 次年度の課題と方針

作成したフロー図を行政や相談支援事業所へ配布します。また、配布後、実際にどのように活用されるのか、保健所の相談日の活用状況を確認していきます。また、事例検討を通して、より良い生活への提案ができるかを検討します。

<添付資料>

- 資料1 自分らしく生活するために自由に家を探そう 報告講演会 案内
- 資料2 「ひきこもり」について考える 講演会 ミニシンポ 案内
- 資料3 医療が必要な精神障がい者の相談対応のフロー図